

SDGs セミナー アンケート集計結果 実施日：2017年11月28日

1. セミナー情報の入手手段：

知人の紹介 (14)、食品産業センターメルマガ (6)、食品産業センターHP (5)、NJPPP メルマガ (3)、NJPPP HP (3)、JICA HP (3)、チラシ (2)、Facebook (1)、その他 (3)

2. セミナー参加目的：

- ・(最新) 情報収集
- ・持続可能なビジネスに興味がある
- ・ネットワーキング
- ・NJPPP の活動状況をより良く知るため
- ・現状認識
- ・個人的な関心
- ・自社事業への切り口を探すため
- ・SDGs の理解 (自社の SDGs への貢献可能性を探るため)
- ・今後、海外での取組みも検討したいと考えているため
- ・栄養改善の実例を聞くため
- ・講演内容に関心があるため (味の素、DFI)

3. 業種：

食品製造 (20)、政府機関 (6)、コンサルタント会社 (6)、研究機関 (1)、国連機関 (1)、NGO (1)、その他 (5)

4. 栄養改善事業を行う上での課題：

- ・ビジネスの共存 (CSR としてではなく、ビジネスとして持続可能な事業が可能か)
- ・国内に製造所がないが、栄養改善事業は可能か
- ・パートナー・マルチセクターとのパートナーシップ
- ・本業の課題：仮説検証のプロセス
- ・対象国で長く対応できる製品になり得る売価が設定できるかどうか
- ・ハラール対応
- ・情報不足 (途上国での栄養不良の詳細等)
- ・資金不足、資金調達の難しさ (どこをキャッシュポイントとするのか?)
- ・人材不足
- ・自社のリソースと事業化への結びつきを途上国でどのように進めるか
- ・栄養問題の認知度が低い (農業・食料の研究機関であるため)
- ・マルチセクトラルで取り組む必要はあるものの、現地の調整が困難
- ・特許の保護
- ・アフリカ諸国は食文化が乏しく、国民食は数種類しかないため農村部では特に栄養が偏ってしまう。

食文化を変えるというのは非常に困難。

- ・水の衛生の問題は重大と思われる。よい栄養を提供しても水が汚染されているのは問題である。
- ・事業性の確保

5. NJPPP に期待すること

- ・グローバルな現状データ・ニーズに関する情報共有、そのセミナー開催。
- ・メンバー企業とのネットワーキング機会、連携・パートナーシップを構築する機会。
- ・現地の詳細情報の提供、各国の課題の紹介。
- ・具体的事例に関するアナウンス（広報）をもっと行ってほしい。
- ・どの地域で、どのような活動が実施され、今後の予想などまとめてある物を拝見したい。
- ・農業分野での介入方法についての情報提供。
- ・保健分野の知識提供。
- ・味の素株式会社以外の具体例を知りたい。
- ・他分野の企業との交流。（多角的な国際協力による課題解決のため。）
- ・民間企業が関わった事例報告会のようなセミナーを開催してほしい。
- ・どの地域で、どのような栄養改善が必要とされているか（最近のトレンド）についてのセミナー開催。
- ・ビジネスセクターと市民社会・学術機関などの連携についてのセミナー開催。

6. その他セミナーの感想等

- ・事業を始めるとかかりが難しいと感じたので、JICA の支援はきっかけに良いと思った。
- ・栄養改善を本気でやる。そのための一つの方法（投資家などの協力）についての話は良かった。
会社にいるとそこまで頭を使ってやっていこう、やろうとなかなか言えない。
企業全体で SDG s をビジネスに結びつける方法を考えないと進まないと感じた。
- ・タイムマネジメントはもう少し厳密に行うべきではないでしょうか。
- ・様々な立場の方々の話を聞くことができ、大変参考・勉強になった。
- ・事業として具体的に取組みを検討する必要があると感じた。JICA のシステムは活用したい。
- ・SDG s や JICA の SDG s ビジネスの内容、他ドナー利用の可能性の大枠はつかめた。
- ・セミナーの休日開催も検討してほしい。
- ・DFI からの話題が非常に興味深かった。
- ・お一人の話す時間があと 10 分長い方が詳しい内容を聞けたと思う。終了時間は 17 時でも良い。